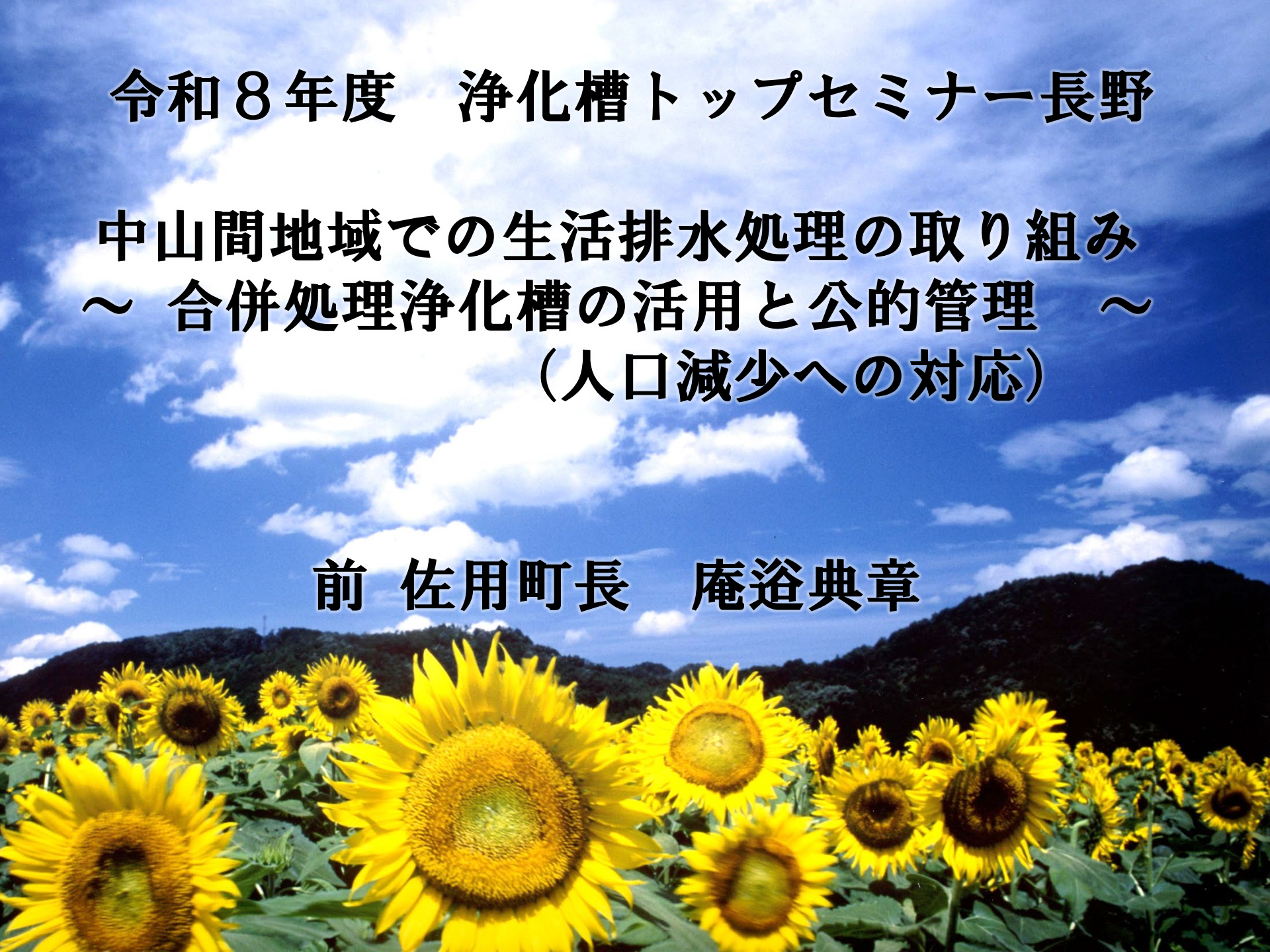
令和８年度　浄化槽トップセミナー長野

中山間地域での生活排水処理の取り組み
～ 合併処理浄化槽の活用と公的管理　～
（人口減少への対応）

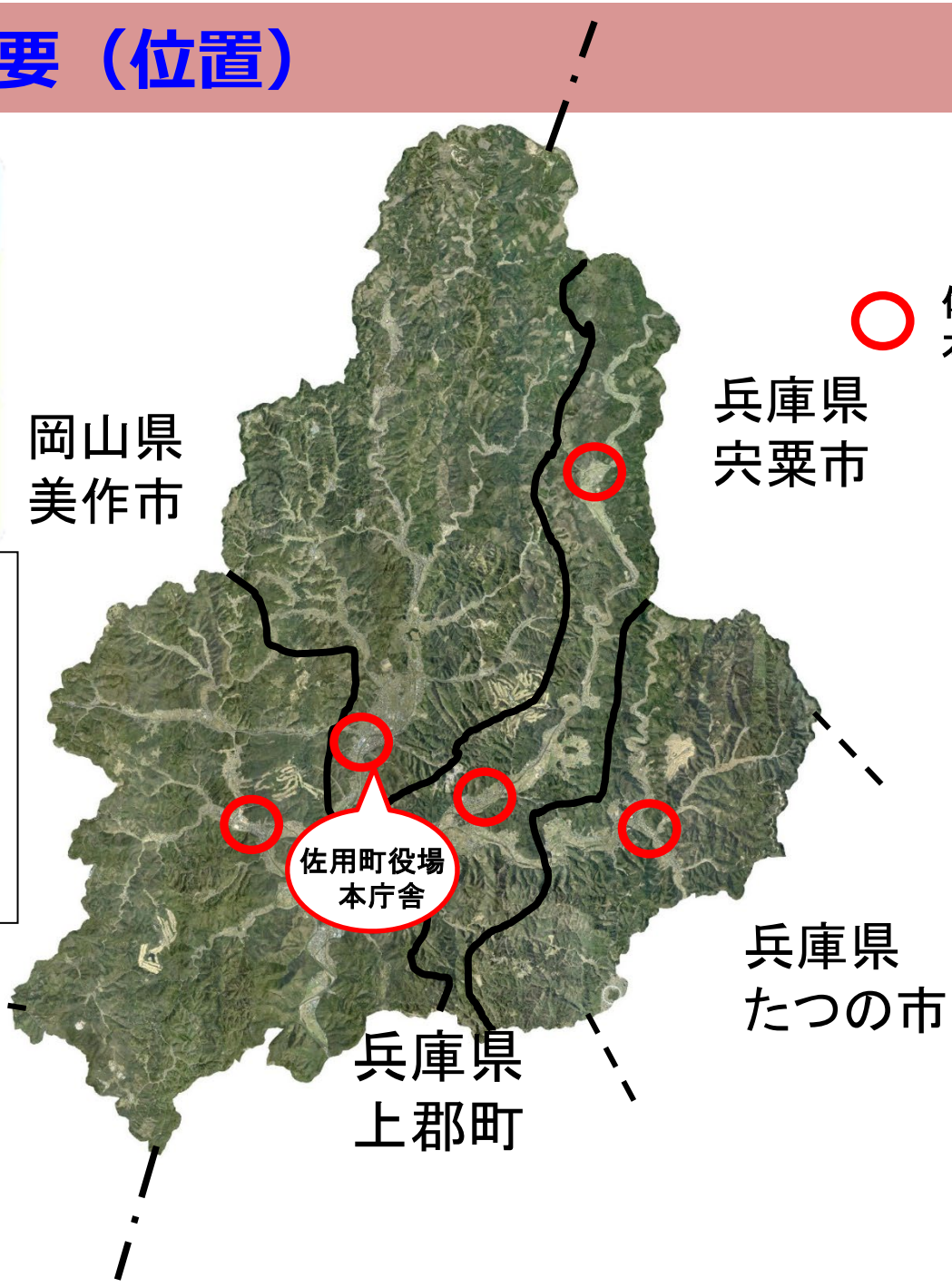
前 佐用町長　庵逧典章



1 佐用町の概要（位置）



平成17年10月
佐用町、上月町、南光町、三日月町　が合併し
新「佐用町」誕生



2 平成21年台風第9号災害

○平成21年８月９日、台風第９号の影響により、１時間降水量89.0㎜、日降水量326.5㎜の記録的豪雨
○死者18名、行方不明者２名、住家被害合計1789棟の大災害が発生
○全国からのあたたかい支援（義援金・ボランティア支援・物的支援など）を受ける

被害の状況

平成22年1月21日現在

人的被害

死　者	18名
行方不明者	2名

住家被害

全　壊	139棟	
大規模半壊	269棟	
半　壊	483棟	
床上浸水	156棟	
床下浸水	742棟	計　1789棟

避難所及び避難者数

ピーク時　8月10日9:00現在　22箇所　2,219人



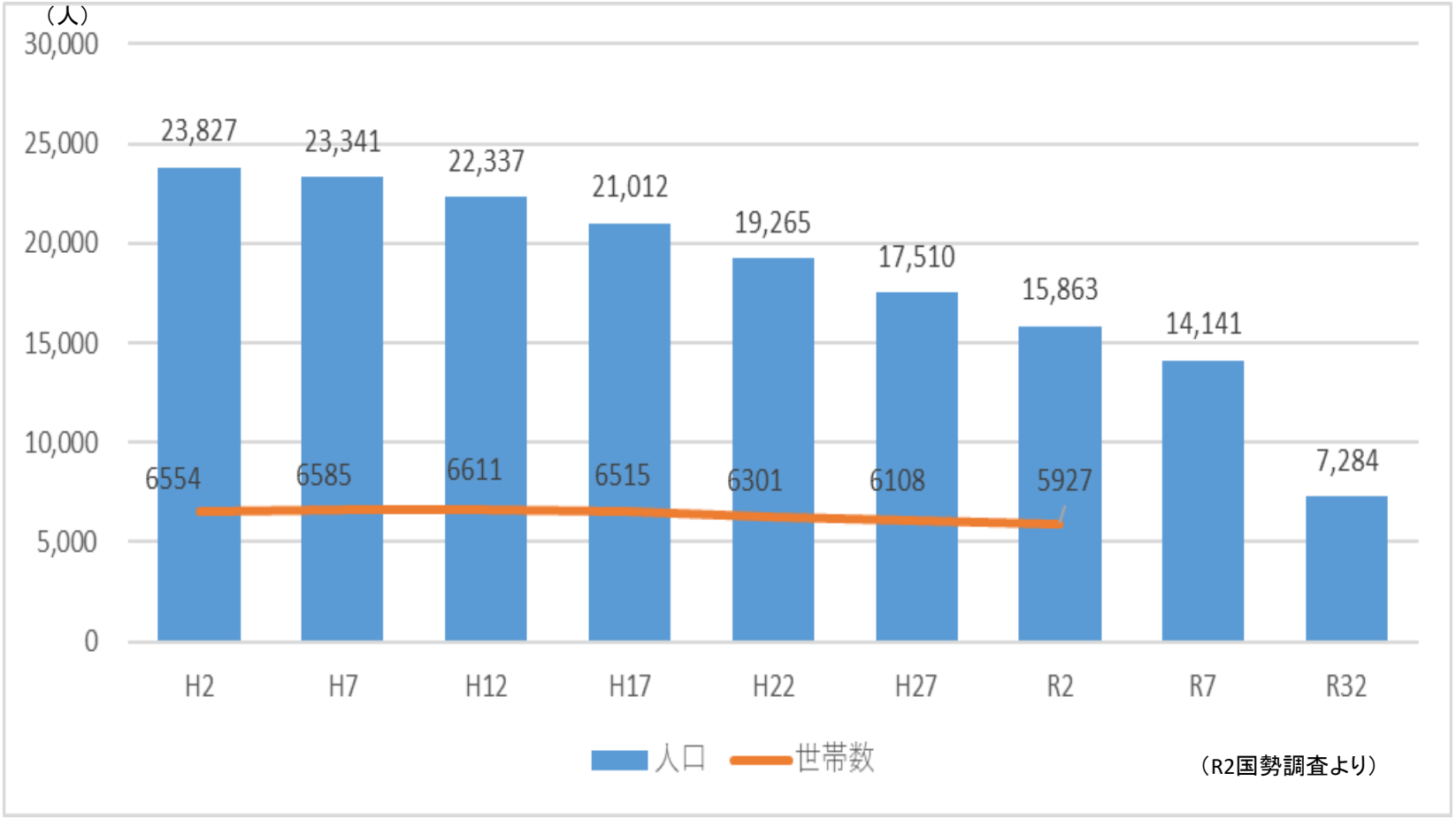






3 佐用町の概要（人口･世帯数推移）

2050年人口推計　7,284人　(社人研推計値)



4 兵庫県の下水道事業推進

1991年(H3)
「生活排水対策99%大作戦」 スタート

上水道の普及率である99%を目標
2001年（H13）までの普及を目指した。

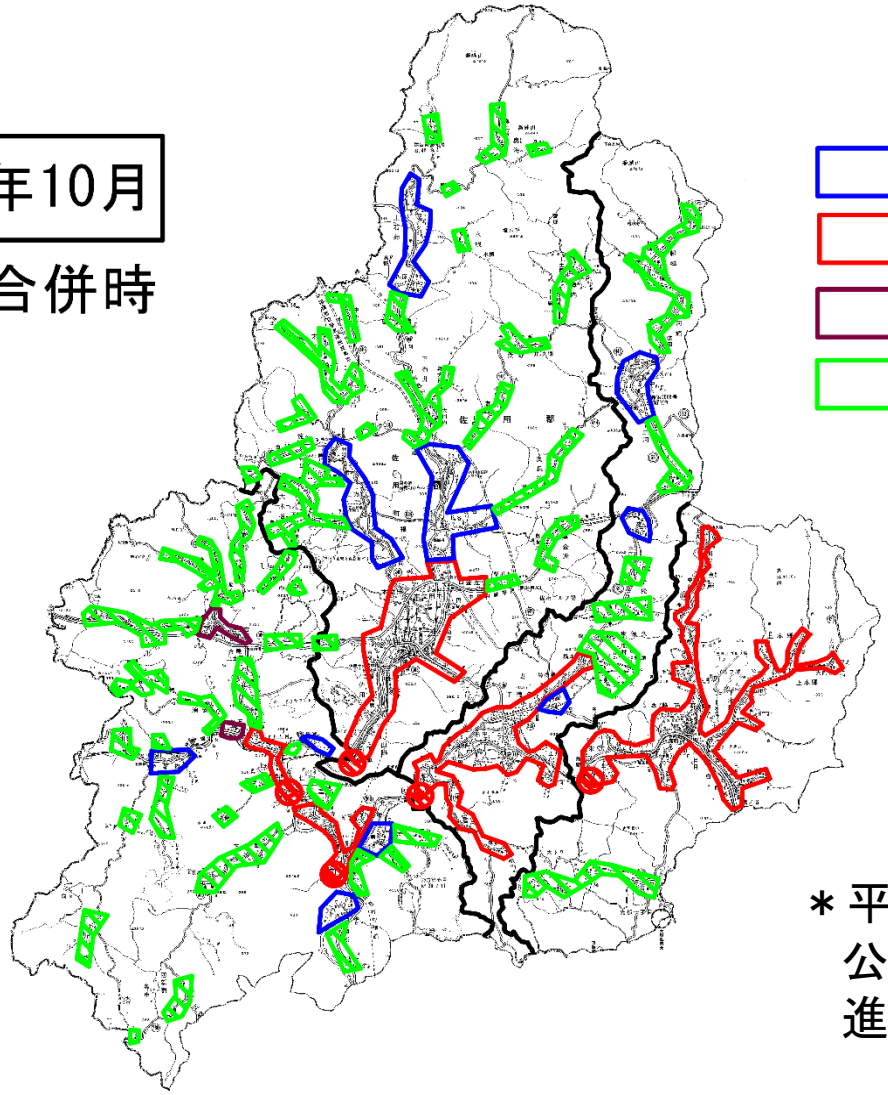
令和4年の生活排水処理率は　96．6%

（R4集計結果より）

5 下水処理施設分布

平成17年10月

佐用町合併時



	農業集落排水	10ヶ所
	公共下水道	5ヶ所
	コミプラ	2ヶ所
	合併浄化槽	1,735戸

＊平成21年度よりコミプラ・農集を公共下水道に統合事業を進めている。

6 下水処理の現状（R4）

【集合方式】

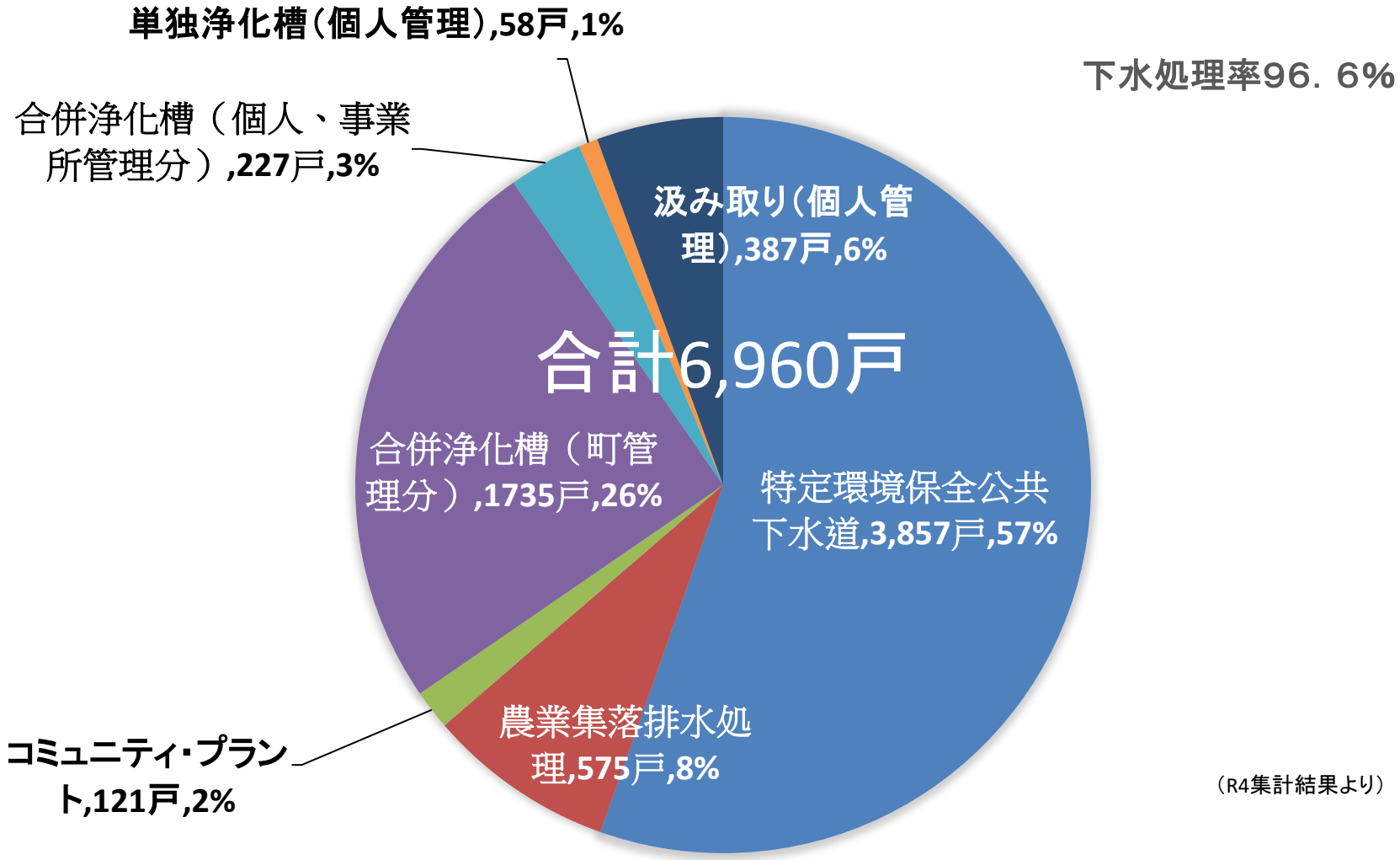
①特定環境保全公共下水道	8,993人
②農業集落排水処理	1,409人
③コミュニティ・プラント	313人

【個別方式】

④ 合併処理浄化槽	（町管理分）	4,119人
〃	（　〃　共同設置）	内　9基
⑤　〃	（個人、事業所管理分）	338人

（R4集計結果より）

6 下水処理の現状（2）



下水処理率96．6%

（R4集計結果より）

7 佐用町における下水道事業の推進

○ 建設コストと維持管理費

処理区分/区分	R3における費用			
	接続人口（人）	1戸当たり建設費（万円/戸）	維持管理費用（万円）	1戸当たり維持管理費用（万円/戸）
特定環境保全公共下水道	8,993	620	15,731	4.4
農業集落排水	1,409	600	3,809	6.8
コミュニティ・プラント	313	800	1,166	9.3
合併浄化槽	4,119	120	13,088	7.9

8 佐用町における下水道事業の取組

○ 適正な管理（水質の保全）

・法に定められた点検・清掃管理の実施
・法定検査（11条検査）の受検率向上
・維持管理による修繕の実施

○ 人口減少への対応

「休止届」により管理対象外として、町の負担軽減を図る

○ 住民への統一したサービス

居住地域（処理区域）が異なっても、一定の料金負担で
同様のサービスが受けられる

○ 集合式（農集）施設から合併浄化槽処理への転換

既設管路を利用した合併浄化槽の共同設置

令和９年度浄化槽整備推進関係予算 概算要求の概要

１．浄化槽整備推進のための国庫助成（循環型社会形成推進交付金等）※廃棄物処理施設整備交付金を含む。

- 汚水処理人口普及率は令和７年度末で94%となったところであるが、依然として地方を中心に約740万人の国民が単独処理浄化槽やくみ取り槽を利用し、生活排水が未処理となっている状況。人口５万人未満の市町村における汚水処理人口普及率は85.1%にとどまっており、これらの地域は人口密度が比較的低いと考えられることから、合併処理浄化槽の整備を通じて汚水処理未普及の状態を早期に解消し、水環境の保全を推進していくことが重要。
- 下水道等の集合処理から浄化槽への転換については、特に推進を図っていきたい公共浄化槽への転換に関しては、令和８年度予算において交付率のかさ上げ（１/３→１/２）を行ったところ。
- 令和９年度要求においては、集合処理から浄化槽への転換に当たり、個人の事情によらず、公共関与により実施する事業について、市町村が設置・維持管理に主体的に関わるなどの一定の要件のもと、公共浄化槽と同水準の支援等を行う。
- また、防災・減災、国土強靭化の観点からも、引き続き、老朽化した単独処理浄化槽やくみ取り槽の合併処理浄化槽への転換促進及び浄化槽の長寿命化の支援や、適正な維持管理を徹底するため、浄化槽台帳の整備や少人数高齢世帯の維持管理費を支援。

○ **循環型社会形成推進交付金等（浄化槽分）**（4P参照）

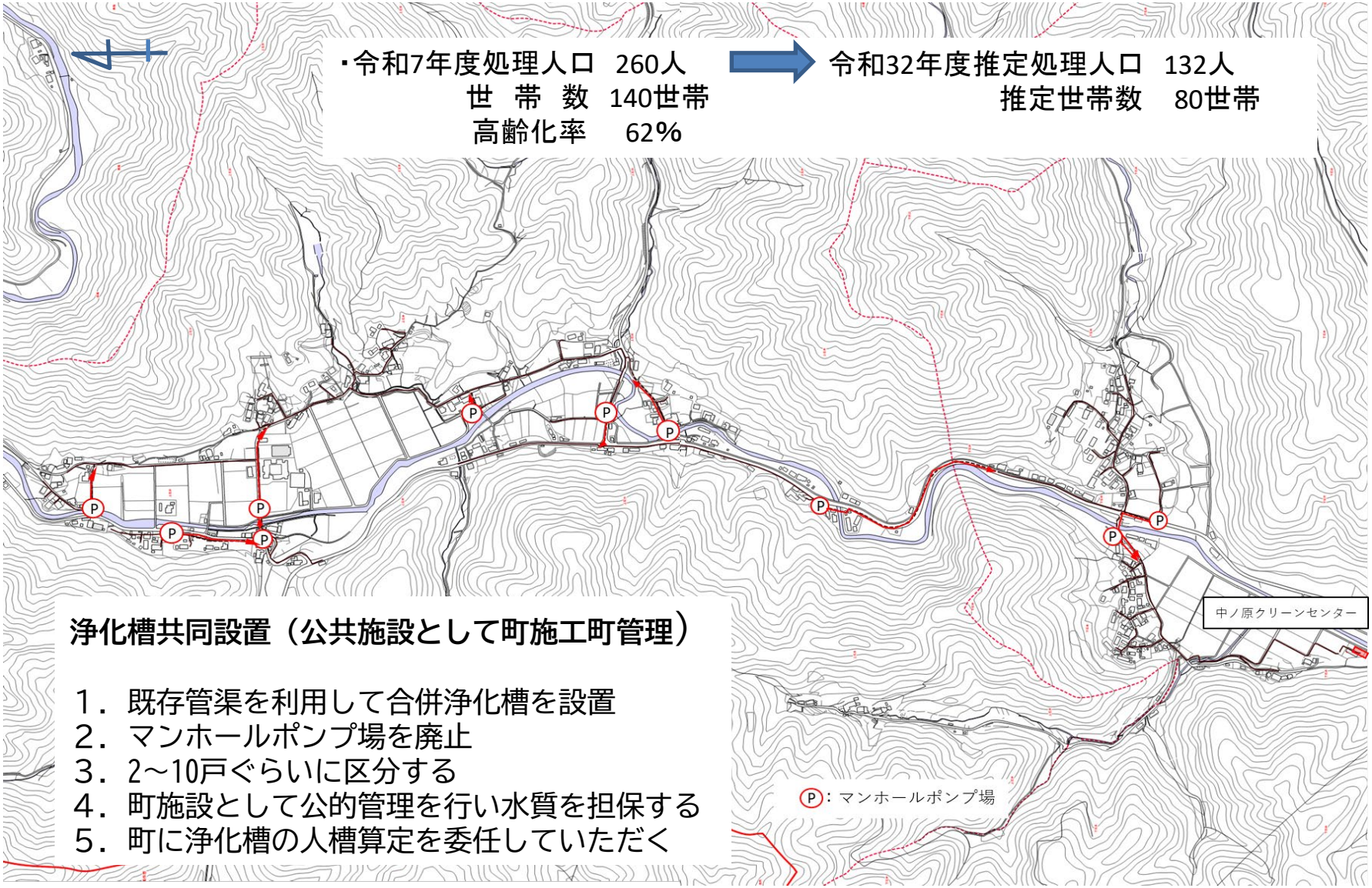
予算事項	令和８年度 予算額	令和７年度 補正予算額	令和９年度 概算要求額	対前年度比
循環型社会形成推進交付金等（浄化槽分）	（９１億円） ８６億円	（５億円） ５億円	（９６億円） ９１億円	（１００%） １００%

※上段（　）は、内閣府〔沖縄〕、国土交通省〔北海道、離島〕計上分を含めた額

2

環境省 「令和9年度 浄化槽整備推進関係予算 概算要求　概要資料」より

佐用町農業集落排水事業
石井地区（平成13年度供用開始） 計画処理人口　730人



浄化槽共同設置（公共施設として町施工町管理）

1．既存管渠を利用して合併浄化槽を設置
2．マンホールポンプ場を廃止
3．2～10戸ぐらいに区分する
4．町施設として公的管理を行い水質を担保する
5．町に浄化槽の人槽算定を委任していただく

9 ～ まとめ ～

これまで、30年に渡り、生活排水処理計画の立案から施設建設、維持運営を行って来た。

平成21年の災害からの復旧に取り組み、人口減少に対応する施設の統廃合によるコスト削減などを実践してきた経験から得た「合併処理浄化槽」の利点

① 安価なイニシャルコスト

② 工期が短く、使用開始が早い

③ 人口減少などの社会変化への対応性

④ 災害に強い

⑤ 自然環境に適した水質保全

10 おわりに

新生「佐用町」が誕生し、17年が経過した今、人口は、約8割となり、20年後には半減するとの推計もあります。

中山間地域の町においては、「人口」という数値に過度にとらわれず、「くらして幸せ」 と感じられる 「まちづくり」を進めるには、生活基盤である上下水道は重要な位置づけとなります。

そのためにも、今後、さらなるサービスの向上と経費削減 による、持続性のある行政運営に努める必要があります。


ー ご清聴ありがとうございました ー